

No.5 1994.7

(社)日本鋳物協会関東支部



# 支部だより

発行所 社日本鋳物協会関東支部  
事務所 東京都江東区永代2-19-7  
(株)瓢屋内 〒135  
電話：03-3641-4121  
FAX：03-3641-4138  
編集責任 支部長 岡田千里  
印刷所 三和プリント有限公司

## 平成6・7年度支部新体制スタート

—支部総会および加山記念講演の報告—

去る5月17日東京工業大学百年記念館において支部総会が開催され、前年度の事業報告および会計報告等に引き続き、平成6・7年度の支部理事40名及び監事2名が選出された。また、新支部長には、株式会社日立金属テクノクス取締役の岡田千里氏が選出され、新体制のもと早々に支部の活動が開始された。

総会終了後、第6回加山記念講演会が開催され、今回は、日産自動車株式会社取締役市村元氏によ



第6回加山記念講演会 (H6.5.17)



神尾前支部長(右側)より岡田新支部長へバトンタッチ

る講演であった。内容は「変革期における自動車用鋳造品のあり方」と題し、鋳型から完成品に至るまでの、氏が集められた新技術、新製品に関する事例紹介であった。講演はスライドにより、実例や製品の写真をふんだんに取り入れながら説明されたため、聴講者一同時間の経つのも忘れ熱心に聴講し、活発な質疑が行われた。

夕刻より、恒例の懇親会が開かれ、新旧の理事を含め参加者による懇談が遅くまで続いた。

## 支部長に就任して

(社)日本鋳物協会関東支部長 岡田千里\*

皆様に推されて、平成6、7年度の支部長を引き継ぐことになりました。当支部は現在、会員994名(全会員3506名)、維持会員174事業所(全体523事業所)で協会の中心的存在といえる支部です。諸先輩が培ってこられた伝統をまもるとともに、このハイテクの世に基盤産業の鋳物が高く評価されるよう、皆様と一丸となって鋳物技術、鋳物産業のレベルアップを図っていききたいと期しております。皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

鋳物生産の海外流出が多くなる状況のもと、日本の鋳物産業が生きる道は技術のレベルアップ、納期を含めた製品の差別化が第一の課題と考えます。総合技術である鋳物技術を一人でレベルアップしようとしても、その意気は褒められましようが現実には至難のことでしょう。関東という比較的狭い地域に1000名もの仲間がいるならば、互いに親密な仲間に

なり、補いあい、助けあってことに当たれば鋳物技術の向上も効率的になることでしょう。

当支部が鋳物を愛し、鋳物に生きる人々の仲間作りの橋渡し役になればと願っています。そして橋渡し役が果たせるような行事を実施しております。毎号本紙には研究部会、現場鋳造技術部会、及びYFE(若手鋳造技術者)部会の諸行事が紹介されております。これらに多くの方が参加し、なんでも言える仲間になって互いに鋳造技術の向上に努めていただきたいと願っております。

来年5月には大宮ソニックシティで当協会第126回全国講演大会が当支部の担当で開催されることになっております。ぜひ盛況裡に行いたい大行事です。大展示会、工場見学会、特別講習会など今から実行委員会を編成し準備を始めております。これについても皆様の一層のご協力、ご支援、よろしく申し上げます。

(\*株式会社日立金属テクノクス)

## 平成6・7年度(社)日本鋳物協会関東支部理事・監事

○岡田千里	(株)日立金属テクノクス 取締役	支部長
天野壮一郎	日本鋳造(株) 技師長	研究
石原安興	日立金属(株) 真岡工場 工場長	現技
○出津新也	自動車鋳物(株) 土浦工場技術センター 課長	研究
○伊藤光男	伊藤鉄工(株) 代表取締役	*YFE
白井弘武	白井軽合金技術研究所 代表取締役	研究・現技
梅田高照	東京大学 工学部金属工学科 教授	研究
梅村晃由	長岡科学技術大学 機械系 教授	研究
大谷利勝	日本大学 生産工学部機械工学科 教授	研究
加藤寛	埼玉大学 工学部機械工学科 教授	YFE
加藤良博	日野自動車工業(株) 鋳造部長	現技
小倉光英	新東工業(株) 東京営業所 鋳機グループリーダー	YFE
日下琢巳	(有)日下レアメタル研究所 取締役社長	総務
桑原明生	(株)リケン 柏崎事業所 常務取締役事業所長	総務
○里達雄	東京工業大学 工学部金属工学科 助教授	総務
佐藤雄三	(株)明賀屋鉄工所 代表取締役	YFE
○鈴木敏夫	(株)瓢屋 東京支社 総務部長	事務局
○高橋忠生	日産自動車(株) 第一技術部 次長	総務・研究
多田恒雄	(株)日立製作所 素形材事業部 事業部長	総務
田中稔秀	日産ディーゼル工業(株) 鴻巣工場 工場長	総務
谷岡慶一	いすゞ自動車(株) 藤沢工場技術企画室 部長	現技
○田村朗	川崎重工業(株) 破碎機事業部開発部主査	総務(編集)・YFE
○中江秀雄	早稲田大学 理工学部材料工学科 教授	*研究
○永瀬昭平	川口内燃機鋳造(株) 経営企画室 室長	*現技
永瀬利男	永瀬留十郎工場 代表取締役社長	YFE
仁科捷哉	(株)真岡製作所 取締役社長	現技
○野口昌彦	埼玉県鋳物機械工業試験場 鋳物部長	*総務
旗野秀雄	内外マリアブル(株) 取締役社長	総務
蜂谷一郎	エムシー砥産(株) 相談役	総務
○日比野高三	(財)素形材センター 技術部長	現技
藤井明	コマツ鋳造事業部 営業部長	総務
○藤広勝彦	日立金属(株) 自動車機器事業部 主管技師	総務・現技
○細川大 学	(株)瓢屋 東京支社 取締役支社長	*会計
前田英三	(株)新潟鋳工所 取締役社長	現技
益岡満雄	三菱自動車テクノメタル(株) 取締役北本工場長	現技
水上義人	コマツ 小山工場 鋳造部長	現技
望月文雄	(株)池貝 常務取締役川口工場長	現技
茂木徹一	千葉工業大学 金属工学科 教授	研究
本淵祥三	相模鋳造(株) 専務取締役	現技
吉田泰三	日本鋳鉄管(株) 直管粉体推進部長	現技
滑川剛三	(財)素形材センター 技術審議役	監事
牧野親二	(有)マテック 代表取締役社長	監事

○印は運営理事を示す。 \*印は部会長を示す。

# 40代でも「YFE」!

## —— 第2回関東支部主催YFEシンポジウムの報告 ——

平成6年4月21日に第2回目の関東支部主催YFEシンポジウムが鋳物の街川口市の川口産業会館で開催された。

シンポジウムは鋳鉄部門とアルミ部門の2セッションに分かれ開催され、参加人数は鋳鉄：約40名、アルミ：約30名であり、大盛況であった。

年齢層については、30～40代の方が一番多いようだったが、20代の方も多数参加しておられYFEの名にふさわしいものだった。

また、内容についても発表時間30分、質疑10分さらに最後に総合討論30分と十分な時間がとられたので、活発な討論が繰り返され、さらに休憩時には、第1回シンポジウム(1992.10.大宮市)と同様に缶ビールや缶酎ハイなどが配られ好評を博していた。

引き続き夕刻の懇親会にも多くの方が参加され、関東支部長の挨拶、伊藤YFE主査の乾杯の音頭の後、和気あいの交流が行われ、所によってはシンポジウムの続きの熱心な討論が交わされていた。

またこの場で「YFEとは何才ぐらいまでか?」などの話も出たが、40代でも「young」という意見もあり、結局は当人の気持ち次第ということに落ち着いたようだった。

以下に発表の概要を紹介する。

### [セッション1] 鋳鉄

司会：(株)橋本鋳造所 橋本一朗氏  
新東工業(株) 今村正人氏

#### ① 金型鋳造によるFCD自動車部品の製造技術と鋳物部品の材料特性

ホンダエンジニアリング(株) 栃木技術センター 渡辺敬夫氏  
サスペンション部のステアリングナックル部品について、従来の砂型鋳造を金型鋳造にすることにより、大幅なラインの合理化・工程数の低減が行われ、かつ、組織微細化により優れた材料特性が得られた。

#### ② 金型鋳造法によるFCDピストンの製造方法

コマツ鋳造事業部・小山製造部 木戸口 功氏  
従来アルミニウム合金製だったディーゼルエンジン用ピストンを鋳鉄にすることにより、高出力・低燃費・排ガスのNO<sub>x</sub>量低減等、数多くの利点が得られた。

#### ③ 超硬合金の鋳ぐるみ及び超硬粉末による鋳物表面改質

自動車鋳物(株)技術センター 出津 新也氏  
材料の複合加工法の1つである鋳ぐるみ法を用いて、耐摩耗部品を対象に超硬合金と鋳鉄(又は鋳鋼)の鋳ぐるみ実験を行い、従来までのろう付法に比べ、低コスト・高信頼性の新製品開発を行った。



YFEシンポジウム(H6.4.21)

### [セッション2] アルミ

司会：東京工業大学 手塚裕康氏  
リョービ(株) 西 直美氏

#### ① アルミニウム合金の半凝固加工

(株)レオテック第2研究部 吉田千里氏  
アルミニウム合金の半凝固プロセスによる成形加工技術の中から鍛造、ダイカスト、押出による研究例を報告しその優れた材質特性について紹介した。

#### ② 不活性雰囲気による低圧鋳造技術の高機能化

日立金属(株)熊谷工場軽合金部 伊藤 哉氏  
不活性雰囲気低圧鋳造技術の開発により、酸化物生成と水素ガス吸収を防ぐことによって、鋳物強度が向上することを明らかにし、高品質の薄肉複雑形状アルミホイールの生産が可能となった。

#### ③ スクイズキャスト工法の自動車用アルミ部品への適用

日産自動車(株)横浜工場工務部 大杉泰夫氏  
鋳物の内部欠陥を減らし、熱処理による高強度化を図れるスクイズキャスト工法(SDC法)の自動車足回り部品や油圧部品への適用事例の紹介。

(川崎重工業株式会社 新田誠也)

## 鋳造現場からの話題(その二)

鋳造工程の中で、注湯作業というのは、大物になるほど一発勝負の賭けどころで、技能的に腕の見せ場というところも聞こえはよいが、大変な作業です。

FCD系の薄肉物は、鋳込重量40kg程度で、ほんの数秒の差が、技能的に争われる場合があり不良等に大きく影響します。

FC系でも、注湯ラインが稼働中にタイミングが

外れ、湯境不良を出す場合があります。

自動注湯は高熱作業の排除ということもありますが、注湯時間のバラツキを少なくとも10%以内に抑えるのに有効です。当面取鍋形状の改善や、出来ればバレル型(円筒)で、注湯ヘッドを一定にする。更に底注ぎ法を再検討してみるのも一考と思われます。(T社の商品スライドゲート)

(第71回現場鋳造技術研究会より)

## 第52回関東支部研究部会開催のご案内

### テーマ「新しい見方：鑄鉄の強さ」

日 時 平成6年9月30日(金) 15:15～17:00  
 場 所 大宮ソニックシティ906号室  
 大宮駅西口下車、歩行者デッキで徒歩5分  
 講 師 早稲田大学材料技術研究所  
 教授 中江 秀雄  
 参加費 1,000円(当日徴収)  
 定 員 80名(定員になり次第、締切らせていただきます。)  
 申込み締切り 平成6年9月22日  
 申込み先 (社)日本鑄物協会関東支部  
 〒135 東京都江東区永代2-19-7  
 (株)瓢屋東京支社内  
 FAX 03-3641-4138 TEL 03-3641-4121  
 詳細は「鑄物」7月号の会告を参照下さい。

## 関東支部新刊図書のお知らせ

### 「現場鑄造技術」第7集

関東支部で開催しております現場鑄造技術研究会で、最近19社より発表された現場改善事例41件を収録してあります。

御希望の向きは下記要領でお申し込み下さい。

申し込み先：〒135 東京都江東区永代2-19-7

(株)瓢屋東京支社内

(社)日本鑄物協会関東支部

TEL 03-3641-4121

FAX 03-3641-4138

頒布価格：1部(A4 248頁) 4,800円

送料400円

申し込みにより郵送しますので、請求書により送金下さい。

## (社)日本鑄物協会本部・関東支部開催行事予定表

開催月日(平成6年)	行 事 名	開 催 場 所	主 催	「鑄物協会誌」 会 告
7月15日(金)	第73回現場鑄造技術研究会	早大材料技術研究所	関東支部	
7月21日(木)～22日(金)	平成6年度第1回技術賞・豊田賞受賞記念講演会及び工場見学会	福島えびすグランドホテル他	本 部	5、6月号
9月29日(木)～30日(金)	平成6年度第2回技術賞・豊田賞受賞記念講演会及び工場見学会	名古屋クラウンホテル他	本 部	7、8月号
9月30日(金)	関東支部全体理事会 第52回支部研究部会「新しい見方：鑄鉄の強さ」	大宮ソニックシティ	関東支部	7、8月号
10月24日(月)～25日(火)	第2回アジア鑄物会議	九州厚生年金会館	本 部	6、7月号
10月25日(火)	技術講習会「生型鑄物のニアネットシェーブ化技術」	九州厚生年金会館	本 部	6、7月号
10月26日(水)～27日(木)	第125回全国講演大会	九州厚生年金会館	本 部	6、7月号
10月28日(金)	工場見学会(4コース)	北九州地区	本 部	6、7月号
11月28日(月)～29日(火)	第6回鑄物現場技術大会	大阪府教育会館 たかつガーデン	本 部	9、10月号
11月15日(火)	第74回現場鑄造技術研究会	早大材料技術研究所	関東支部	
11月(未定)	YFE工場見学会	未 定	関東支部	

詳細についての問い合わせ電話番号 本部：03-3541-2758、関東支部：03-3641-4121

## 編集後記

今年は空梅雨ということで、関東地方も早々と梅雨明け宣言が出されてしまった。おかげで、既に水不足とか給水制限とかがニュースとなっており心配される。さて、当関東支部も新理事が決まり各部会ともはりきって色々な計画を立てている。当面は、来春の第126回全国講演大会が最大の目標となるが、当支部の若手も積極的に参加してくれており、何とか本協会活動をさらに活性化していこうという様子

がうかがえる。

これから出てくる新企画が楽しみである。

本号より「支部だより」を協会誌より一足早く(?) A4サイズに変更した。多少記事内容を増やすことができ、何よりも見やすくなったのではないと思う。今後は、読者の方々が毎号ファイルし手元に残していただけるように、内容をさらに充実させて行きたいと思う。

(田村 朗)